

大堀 恵子 (82歳) 東北ブロック：宮城県
平成元年から17年まで、永年に亘り県女性薬師の理事並びに監事として積極的に活動し、後進の育成にも尽力。現在も相談役として、会運営の指導・支援をする等、会の発展のために多大な貢献をしている。また、県薬においても、永年に亘り代議員・支部役員として、女性薬剤師の地位向上のために貢献している。

藤井 美夫子 (80歳) 関東ブロック：栃木県
栃木県女性薬剤師会55周年を迎えるにあたり、昭和47年度から40年間、会の発展のために絶大なる援助の力を限りなく注ぎ、まとめ役に徹して下さった存在は大きい。曾根元会長、田中前会長の叙勲にもご尽力され、現在まで、歴代会長を支えて下さった奉仕の40年間に、会員一同大変感謝している。

今田起 世子 (83歳) 関東ブロック：東京都
永年に亘り東京都女薬理事として総務を担当し、会運営の中心的役割を担って活躍。その後、監査役として会の健全運営に尽力した功績は大きい。穏やかで謙虚な人柄、何事にも協力的で、責任感が強く、会の方針を的確に理解し、会の要望にもしっかり対応して信頼も厚い。現在も相談役として会運営に大きく貢献している。

朝妻 エツ子 (65歳) 北陸信越ブロック：新潟県
35年に亘り学校薬剤師として学校保健の改善指導に尽力する傍ら、新潟市・新潟県学校薬剤師会の役職も務め、新潟市学校薬剤師会発行「よりよい教育環境をめざして」の編集委員長として活躍されている。新潟県女性薬において、幹事・理事として卓越した識見と行動力で会員の意識向上と会の発展に寄与されている。

河本 ミツ (75歳) 四国ブロック：愛媛県
永年に亘り、愛媛県女性薬理事、愛媛県薬理事として、会の運営の指導的立場にあり、力を尽くされた。学校薬剤師としても、非常に活躍されている。また、開局薬剤師として、保健・医療における貢献も多大で、地域住民の健康相談にも、大変信頼を得ている。このような多方面の功績により、各種表彰を受賞されている。

渡久山 京子 (70歳) 九州ブロック：沖縄県
沖縄県薬剤師会理事、沖縄県病院薬剤師会会長、沖縄県女性薬副会長・会長を歴任され、各組織の創始者としての功績は計り知れない。特に女性薬を51年に立ち上げ、副会長として会長を補佐し、会員増強に尽力された。平成11年から会長として、日女薬ガイドライン通信教育に参加し、会員の更なる資質向上に貢献された。

(6名、順不同、敬称略)



会長を中心に左より西江(長野県：学術奨励賞)、渡久山、河本、今田起、藤井、大堀の各先生

平成23年度 行事予定

- 4月 ●平成23年度 通信研修講座「診療ガイドライン薬剤コース」開始
- 6月18日(土) ●平成23年度 第1回定時社員総会
 - 一般社団法人特別講演会
 - 功労賞・学術奨励賞表彰式の開催
 - 一般社団法人会員交流・懇談会
- 6月19日(日) ●学術講演会
- 8月 6日(土) ●第9回 移動セミナー in 青森 交流会
- 8月 7日(日) ●第9回 移動セミナー in 青森
- 10月9日(日)・10日(月) ●第44回日本薬剤師会学術大会(宮城県)

移動セミナー報告

富山県女性薬剤師会 会長 渡辺 悦子

前日までの雨も上がり、初秋の晴れとなった平成22年9月18日～19日、富山県女性薬剤師会が担当し富山名鉄トヤマホテルに於いて、第8回日本女性薬剤師会移動セミナーを開催いたしました。セミナーのスタートを切る交流会は富山の「おわら」演舞でオープンし、ご来賓に石井富山県知事、国会議員の先生方をはじめ多くの方々をお迎えしての会となりました。全国各地より富山へお集まりいただき和やかで楽しい会であったと喜んでいただいたようです。

19日(日)は、セミナー「保健・医療・福祉の架け橋になろう」、テーマ「在宅医療



ケアマネ薬剤師である浅利先生の発表

における薬剤師の役割」～多職種連携～を午前8時30分受付開始、9時30分開会。まず特別講演として「在宅終末期医療とナラティブ」と題して、ものがたり診療所院長、佐藤伸彦先生より人生最後を生き抜くことを援助する場、その医療について感銘深いお話を頂きました。その後、会員発表、午後は基調講演での問題提起を受け、今回のメインテーマ多職種連携についてシンポジウムを展開、熱心な発表を聞かせて頂きました。午後4時30分に日程を終了しました。参加者は約230名となり盛会となったことを喜んでおります。多くの皆様の参加が会を盛り上げるセミナーにつなげて頂いたと考えます。会員の皆様、北陸の地富山へお集まりいただいたことに感謝申し上げます。

診療ガイドライン・薬剤コース

新しいエビデンスに基づく治療法を学ぼう!

8年目を迎えた今年度は、7年間の受講生の分析を行い、最新のガイドラインを厳選。ガイドラインと薬物療法の履修により、基礎力の養成を行い、日常業務への反映に役立ち、よりよい服薬指導ができます。

学習スケジュール		学習スケジュールは予告なく変更する場合があります。
平成23年 4月	糖尿病：重要なことは治療の継続	
5月	うつ病：「がんばって」と言わないで	
6月	加齢に伴う眼科疾患：目の成人病	
7月	妊娠・出産：未来世代の新たな生命のために	
10月	肝炎・肝硬変：肝臓は本当に沈黙の臓器か?	
11月	認知症：アルツハイマー病との関連	
12月	副鼻腔炎：安易な抗菌薬の投与は禁物	
平成24年 1月	アトピー性皮膚炎：「かゆい!」がストレス	

※8・9・2・3月はスクーリング講座への出席と復習にあてて。

■詳しくはホームページをご覧ください <http://jyoyaku.net>

在宅専門薬剤師への道

在宅医療に特化した初の通信教育講座、開講!

本講座では、「地域医療連携」の中で薬剤師が対応すべき内容を網羅的に学んでいきます。実際の症例をもとに、在宅医療で想定しうる疾患を専門的に学習、他職種スタッフとのスムーズな連携などを、実践的に学べます。

第1期	第2期	第3期
① 在宅療養と薬剤師	① 栄養管理	① 疼痛緩和ケア
② 在宅での薬の服薬・管理	② 摂食嚥下障害・口腔ケア	② 慢性心・腎不全
③ 認知症	③ 皮膚疾患	③ 慢性呼吸不全
④ 神経難病	④ 合併症を伴う糖尿病	④ 寝たきりの高齢者
⑤ 老人性運動器疾患	⑤ 脳血管障害	⑤ 薬局の役割

■詳しくはホームページをご覧ください <http://jyoyaku.net>

JWPA 日本女薬新聞

No.50 平成23年3月20日発行 編集発行人：近藤 由利子
発行：一般社団法人 日本女性薬剤師会 東京都墨田区太平 3-1-1 坂部ビル 2階
TEL：03-3621-0489 MAIL：jwpa@khh.biglobe.ne.jp URL：www.jyoyaku.net

あいさつ

一般社団法人 日本女性薬剤師会 会長 近藤 由利子



全国都道府県女性薬剤師会会員の皆様には、本会の事業運営にご協力を賜り感謝申し上げます。

日本女性薬剤師会は、2008年12月、一般社団法人となり、本年度で3年目を迎え2011年は飛躍の年にしたいと思っております。平成23年は、厳しい医療環境のなかで、チーム医療における薬剤師業務の一層の展開、平成24年度の診療報酬改定における薬剤師業務の評価獲得、介護報酬の改定にむけて、組織的に独自性のある行動指針を示し活動していきます。

在宅医療専門薬剤師を目指す既卒者のためのフィジカルアセスメント講習会は、特に、処方提案による積極的な処方への関与、安全な薬物療法を行うためにさらなる展開を検討します。多職種間連携の中になすべき役割を見いだし、実現する能力を身につけることはもとより、看護師、ヘルパーなどとのゼミの開催を考えています。昨秋はAPEC(WLN)会合が開かれ、日本女性薬剤師会が参加、「日本女性薬剤師会の活動についてー生活・環境保

全、少子・高齢社会の医療、福祉を担う人材育成)を紹介するチャンスを得ました。女性の経済活動小委員会、2010年WLNの提言の内容の推進、WLN国内委員会との連携に参加を要請されています。起業家支援事業も、2011年女性薬剤師リーダーズネットワーク(女性経営者の会)とし、起業家を支援していきます。国のポジティブ・アクションを受け、男女共同参画社会づくりの提言、女性の視点での生涯学習・能力開発の推進(夜間大学院の設置要望など)、2つの通信教育講座の参加推進。薬剤師は地域の科学者・化学者として、環境保全のために、リーダーシップを発揮する。環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査、(エコチル調査)」の情報、胎児環境と未来世代の健康を守るためにの講演会企画、など環境問題の啓発啓蒙に努めていきます。会員のご健闘をお祈りし、今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。



近年、在宅医療に注目が集まっています。病院を中心とした医療供給体制に限界が生じるようになりました。新たな担い手のひとつとして在宅医療が注目されているのです。しかし、病院の医療をそのまま在宅に移行してもうまくはいきません。在宅、すなわち生活の場での医療というのは、患者さん、取り巻く家族、地域を含んだ「物語」があり、これを無視しては、在宅での医療は成立しないのだと考えています。

例えば、薬剤師として患者さんの自宅を訪れ、大量の飲み残しの薬を見つけたとします。患者さんに薬の必要性を改めて説明することで、これらは改善するでしょうか。おそらく改善しないと思われます。何故、服薬がきちんとできないのか、その事情、患者さんの考え、それを十分に考慮して対策を立てる必要があることは、経験のある薬剤師にとっては自明のことでしょう。この患者さんの事情や考え方といったものが、「物語」と考えてもいいのだと思われます。

「物語」の主人公は患者さん自身です。彼らが主人公として、「不幸ではない」物語の結末を得られるようにするためにはどうすればよいのか、一緒に考えてみたいと思います。



プロフィール
●父 鈴木荘一(日本のホスピタリティー・ケアの第一人者)の概念を引き継ぎプライマリ・ケア、特に在宅緩和ケアを専門としている
●東京医科歯科・東邦・昭和 各大学で教授・講師を務める
●主な著書は、「在宅医療テキスト」「在宅ケア辞典」「がんの在宅医療」「在宅医学」「明日の在宅医療」「在宅でよくそつに出会ったら」など
●日本プライマリ・ケア学会・日本在宅医学会・全国在宅療養支援診療所連絡会などで活躍

学術講演会

もっと学ぼう栄養と疾患 胎児～終末まで

平成23年度 日本女性薬剤師会学術講演会は、女性が考えなければならない胎児から終末期までの栄養と環境問題をテーマに取りあげます。

最近の医療行政について

厚生労働省 大臣官房審議官 平山 佳伸 先生

胎児環境と未来世代の健康を守るためにー環境改善型予防医学の必要性ー
千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 教授 森 千里 先生

若年女性におけるダイエットの功罪

福島県立医科大学医学部 准教授 性差医療センター部長 小宮 ひろみ 先生

緩和ケアにおける輸液・栄養管理

藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授 東口 高志 先生

◆新企画◆ ランチョンセミナー

骨粗鬆症(中外製薬) 疼痛緩和(ヤンセンファーマ)

主催 一般社団法人 日本女性薬剤師会

日時 平成23年6月19日(日) 9:00～16:00開催

会場 星薬科大学 メインホール 東京都品川区荏原2-4-41

対象 全国の薬剤師・薬学生

申込方法 ホームページからご案内 <http://jyoyaku.net>